

当院における持参薬管理のメリット

岡山協立病院 薬剤部

内容

1. 当院での持参薬管理システム
2. 鑑定・処理に関わる手間と利益
3. まとめ

内容

1. 当院での持参薬管理システム
2. 鑑定・処理に関わる手間と利益
3. まとめ

岡山協立病院の概要

病床数:318床

診療科目: 内科 外科 整形外科 小児科 泌尿器科
脳神経外科 皮膚科 婦人科・産科 眼科
耳鼻咽喉科 心療内科 歯科 疼痛治療科

職員数:450人

薬剤部:薬剤師12人、事務1人

【各種許可・認定】

2003年 日本医療機能評価機構認定

2007年 ISO9001:2000認証取得

2008年 日本医療機能評価機構 Ver.5更新

2008年 DPC導入

岡山医療生活協同組合

総合病院岡山協立病院

岡山東中央病院

せいきょう駅元診療所

コープ西大寺診療所

わかくさ診療所

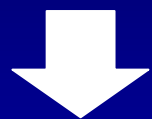
コープみんなの診療所

2006年に全事業所に電子カルテを導入

⇒カルテ内容を相互閲覧可能

当院における持参薬管理の手順

入院



持参薬受け取り

内服薬の情報収集

(診療情報提供書、薬情、お薬手帳など)

持参薬継続・中止指示確認

看護師 医師



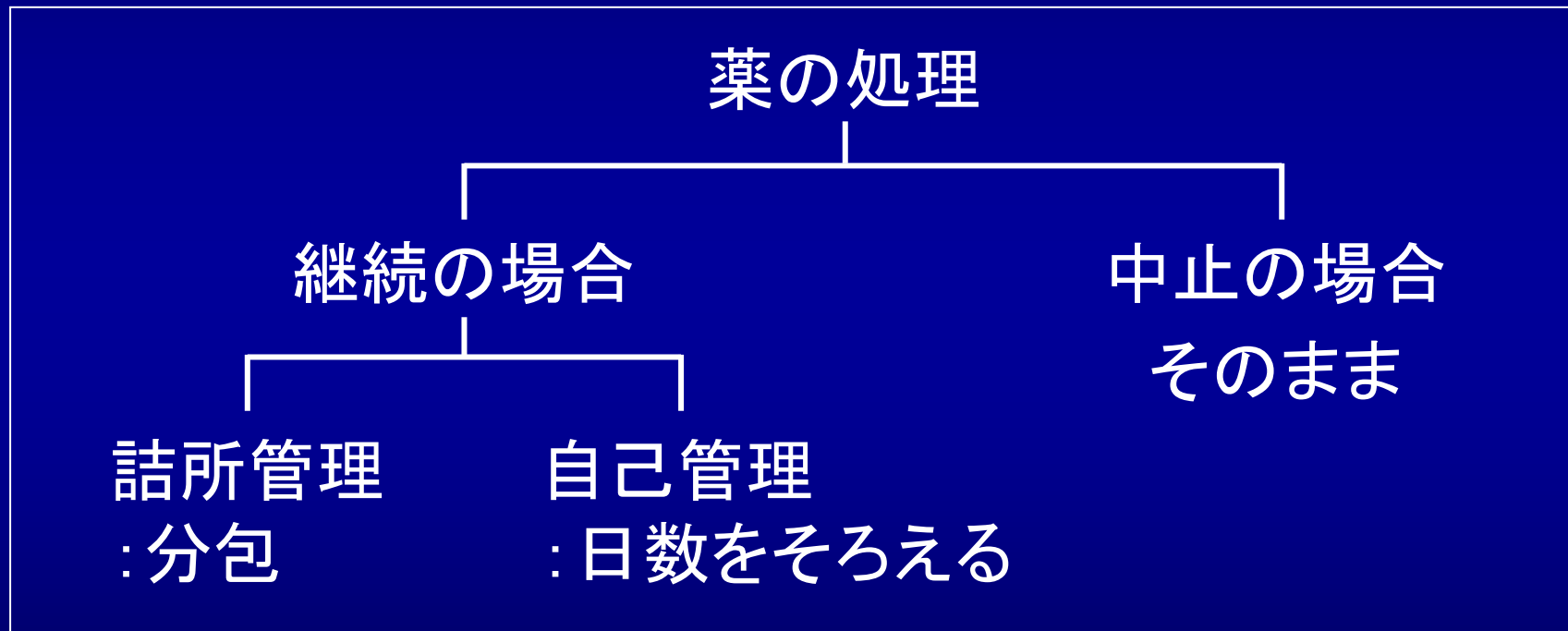
薬剤部へ内服薬情報と持参薬を渡す

看護師



薬剤師

持参薬鑑別・電子カルテへ処方内容入力



病棟へ戻す

当院の持参薬処理ルール

- 処方元ごとに分けて診療科別
- 持参数が最少の薬剤に日数をそろえる
- 鑑別不能な薬剤は使用しない
- 用法用量不明の薬剤は医師に確認

処方内容入力画面

持参薬(登録指示)

入院期間	2009/8/12	~ 入院中	院所	協立病院	最終更新者	岩本 忍 2009年10月02日
------	-----------	-------	----	------	-------	---------------------

備考

★継続指示★ 8/13まで病棟取り置き
 ①8/12~8/18まで 7日分: 〇〇〇〇病院処方薬
 ②8/12~8/16まで 5日分: 協立病院内科処方薬

薬局で確認した薬

マグミット錠330mg	15錠
アムロジピン錠5mg「オーハラ」	3錠
フルイトラン錠2mg	3錠

服薬上の注意事項

②すでに分包されています。下剤は調節されているようなので、PTP包装のままホチキス留めました。

他にカイマックス 13錠、フレタール 11錠、フルリア(2) 2錠を持参されていますが、現在服用されていないようです。

参考処方

①協立病院 内科 〇〇〇 医師
 院外処方 2009/07/19
 №20090719001388-1
 マグミット錠330mg 3錠
 …分3 毎食後 35日分
 アムロジピン錠5mg「オーハラ」 1錠
 フルイトラン錠2mg 1錠
 …分1 昼食後 35日分

持参薬

薬品名	薬効	1日量	単位	用法	日数	当院採用薬	コメント	服薬
デバケンR錠200	その他/フェニトイン含有配合剤の抗てんかん剤	2	錠	分2 朝・夕食後	5	デバケンR錠200	↓①〇〇〇病院	<input checked="" type="checkbox"/>
フレタール錠100mg	その他/配合剤の血液・体液用薬	2	錠	分2 朝・夕食後	5	フレタール錠100mg		<input checked="" type="checkbox"/>
サイトテック錠200	その他/動物製剤/臭化プロバンテリン・クロロフィル・被覆剤/塩酸ピバタナール・ナリニル・神薬剤/ホ	2	錠	分2 朝・夕食後	5	サイトテック錠200μg		<input checked="" type="checkbox"/>
セレコックス錠100mg	その他/動物製剤/ピラゾロン・フェネチジン・尿素化合物(カフェイン配合を含む)/サリチル酸・ピクサ	2	錠	分2 朝・夕食後	5	セレコックス錠100mg		<input checked="" type="checkbox"/>
ロヒプノール錠1	ベンゾジアゼピン系製剤	1	錠	分1 眠前	5	ロヒプノール錠1		<input checked="" type="checkbox"/>
レンドルミン錠0.25mg	ベンゾジアゼピン系製剤	1	錠	分1 眠前	5	グッドミン錠0.25mg		<input checked="" type="checkbox"/>
セレネース錠1mg	その他/配合剤の精神神経用剤	3	錠	分1 眠前	5	セレネース錠3mg	当院採用薬では1錠分1	<input checked="" type="checkbox"/>
ブルゼノド錠	植物性製剤	2	錠	分1 眠前	5	ブルゼノド錠12mg	PTP	<input checked="" type="checkbox"/>

内容

1. 当院での持参薬管理システム
2. 鑑定・処理に関わる手間と利益
3. まとめ

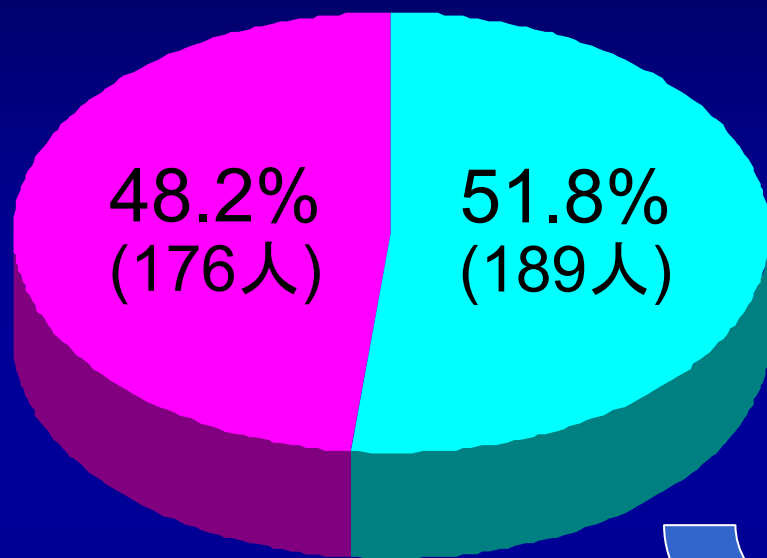
【対象】

2009年8月度に入院した全患者

【調査項目】

- ・薬の持参率
- ・剤数
- ・使用率
- ・使用した日数
- ・処方元の割合
- ・鑑定・処理時間
- ・管理方法
- ・経済効果

持参率

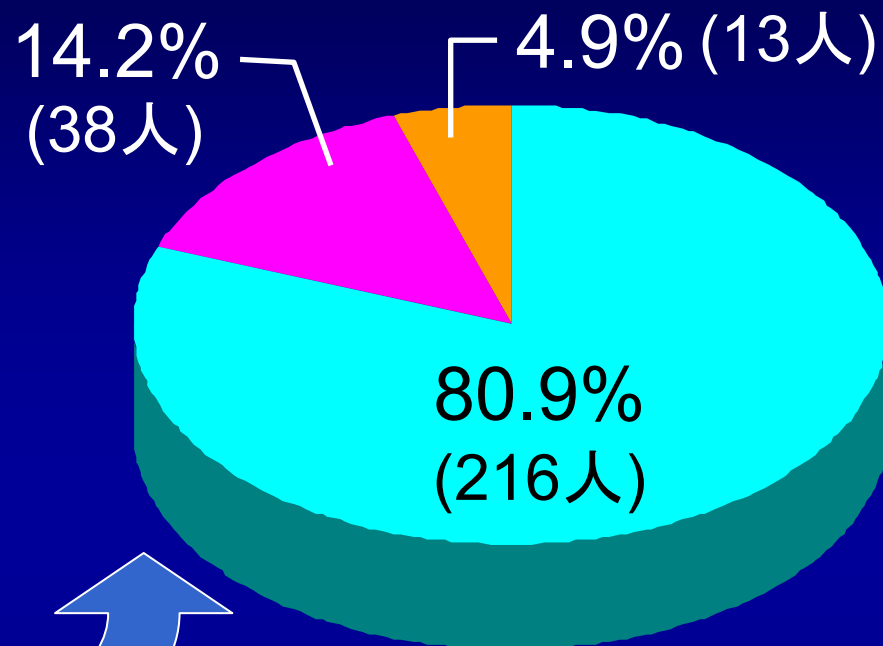


(2009年8月入院患者数:365人)

- 持参薬あり
- 持参薬なし

* 一日入院は鑑定しない場合もある

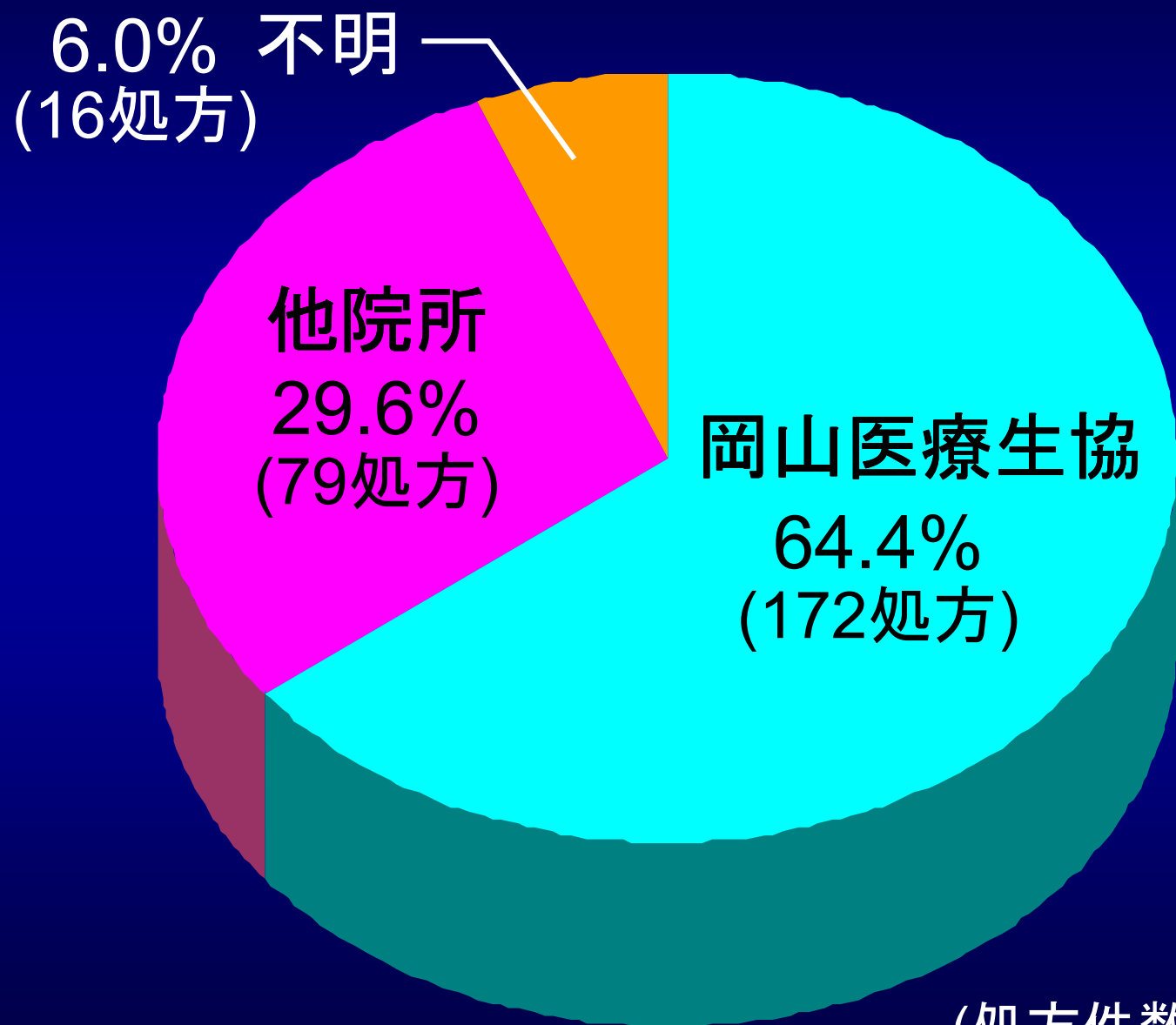
持参薬使用率



(持参人数:189人)

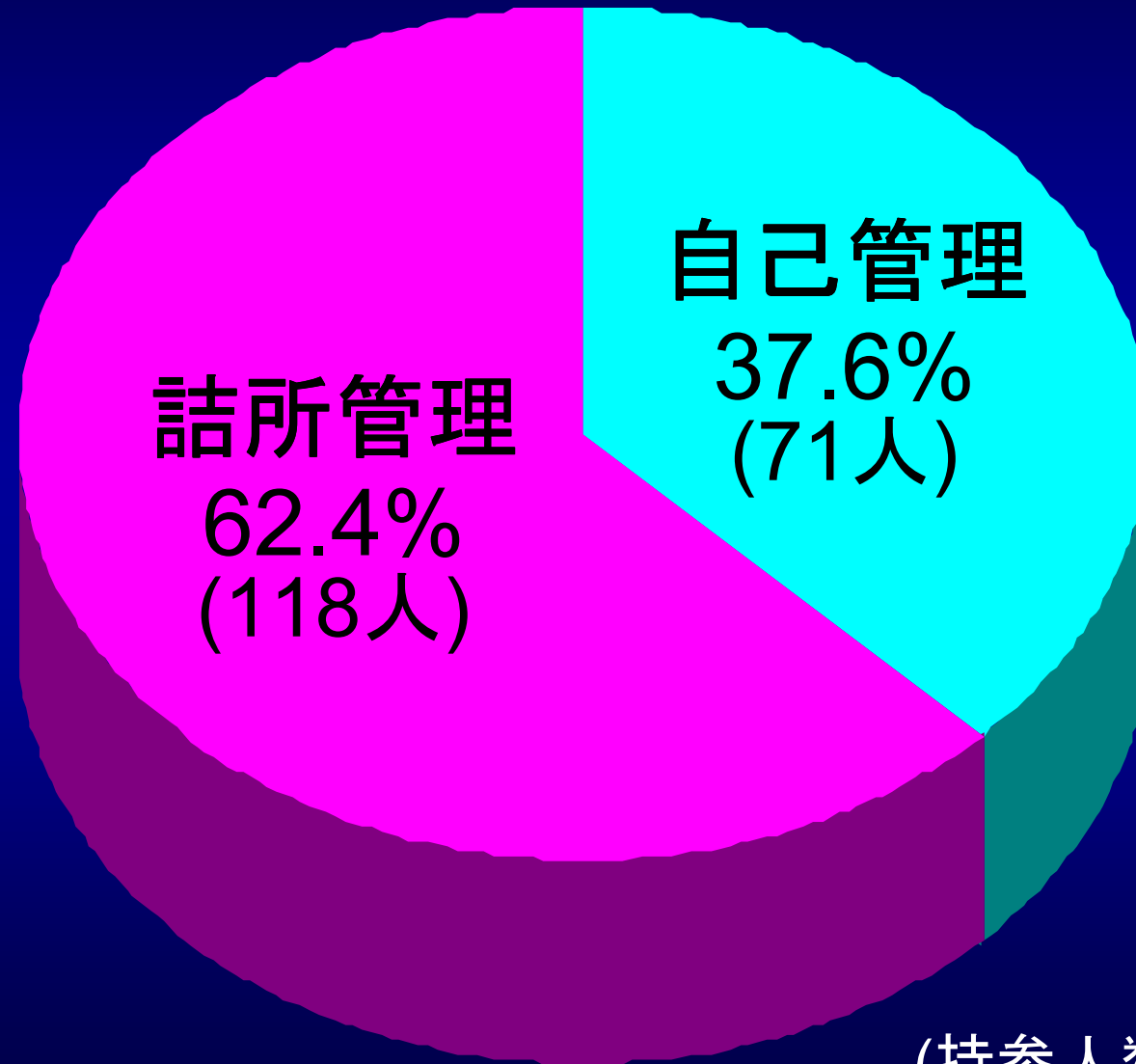
- 継続
- 中止
- 再開

持参薬処方元



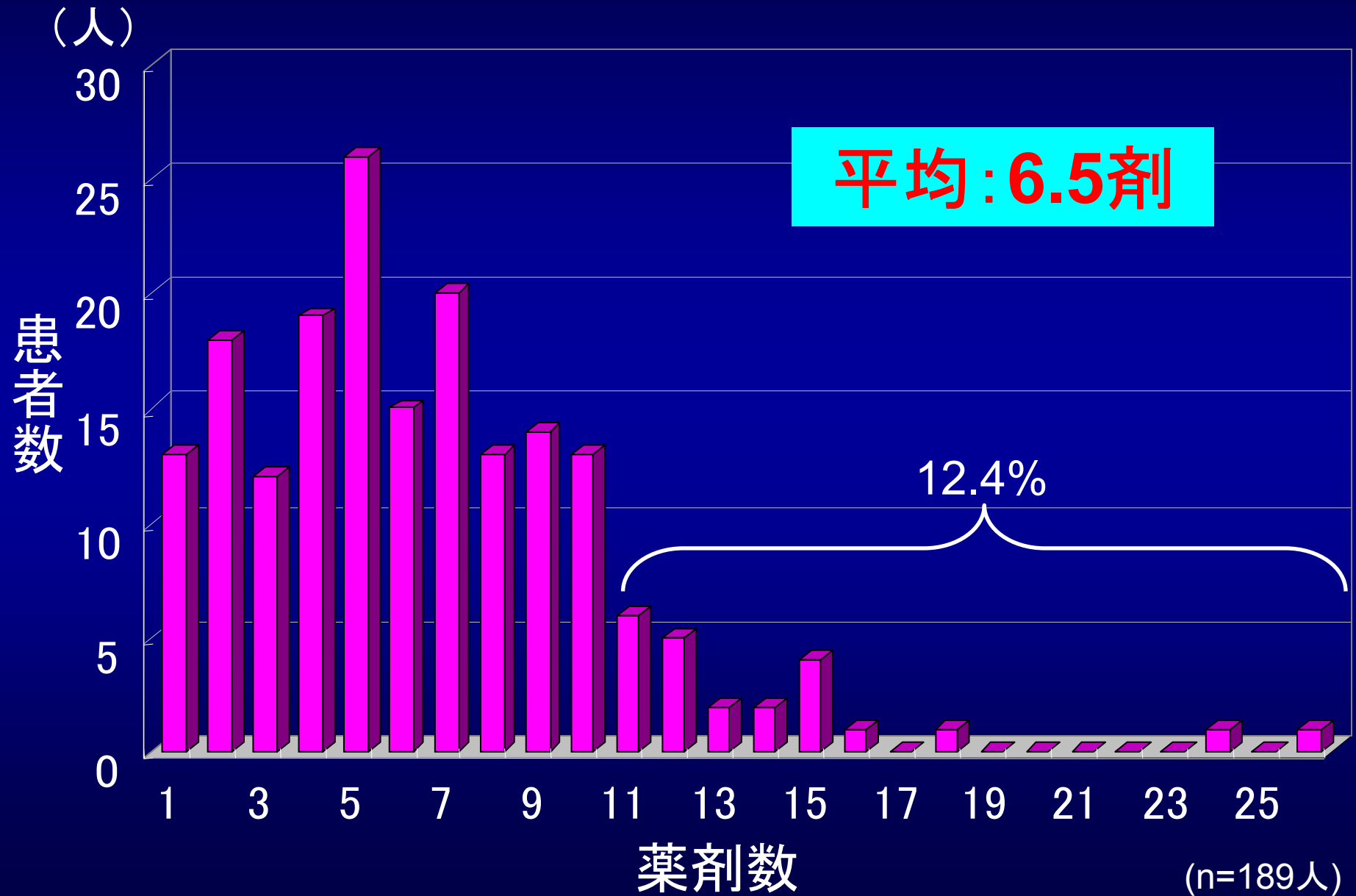
(処方件数: 267件)

持参薬管理方法

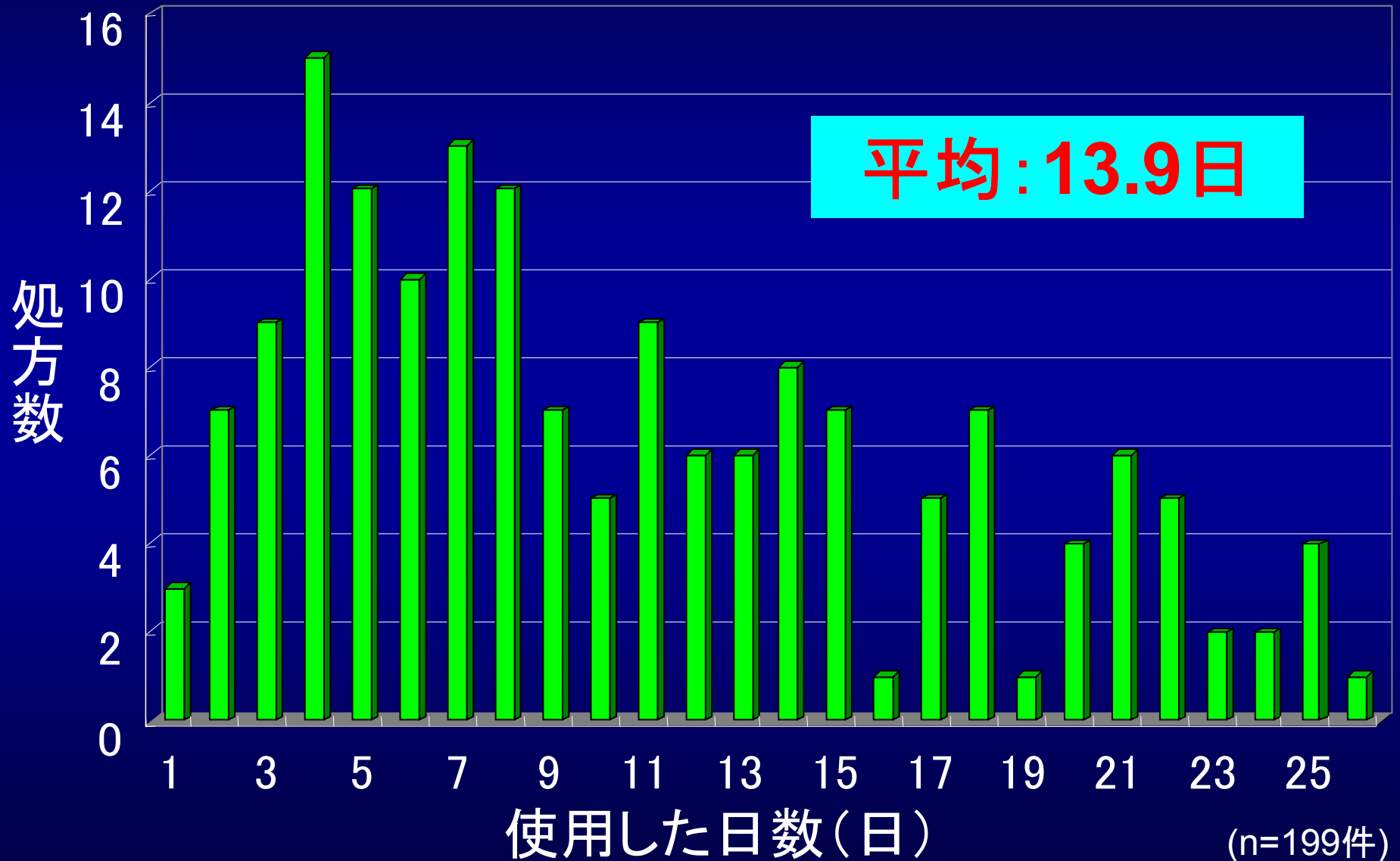


(持参人数: 189人)

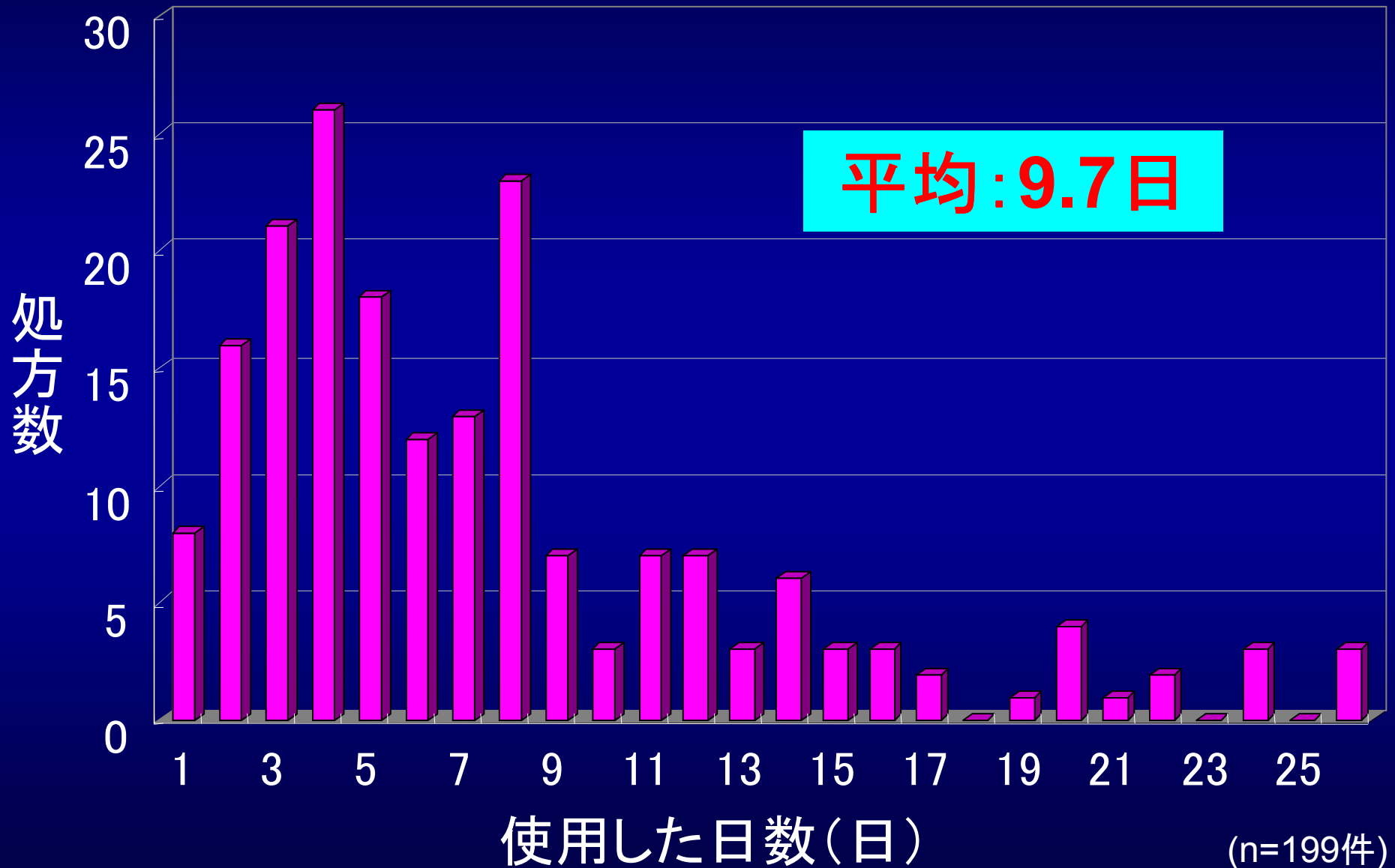
持参薬の剤数



持参薬の使用可能日数



持参薬を使用した日数

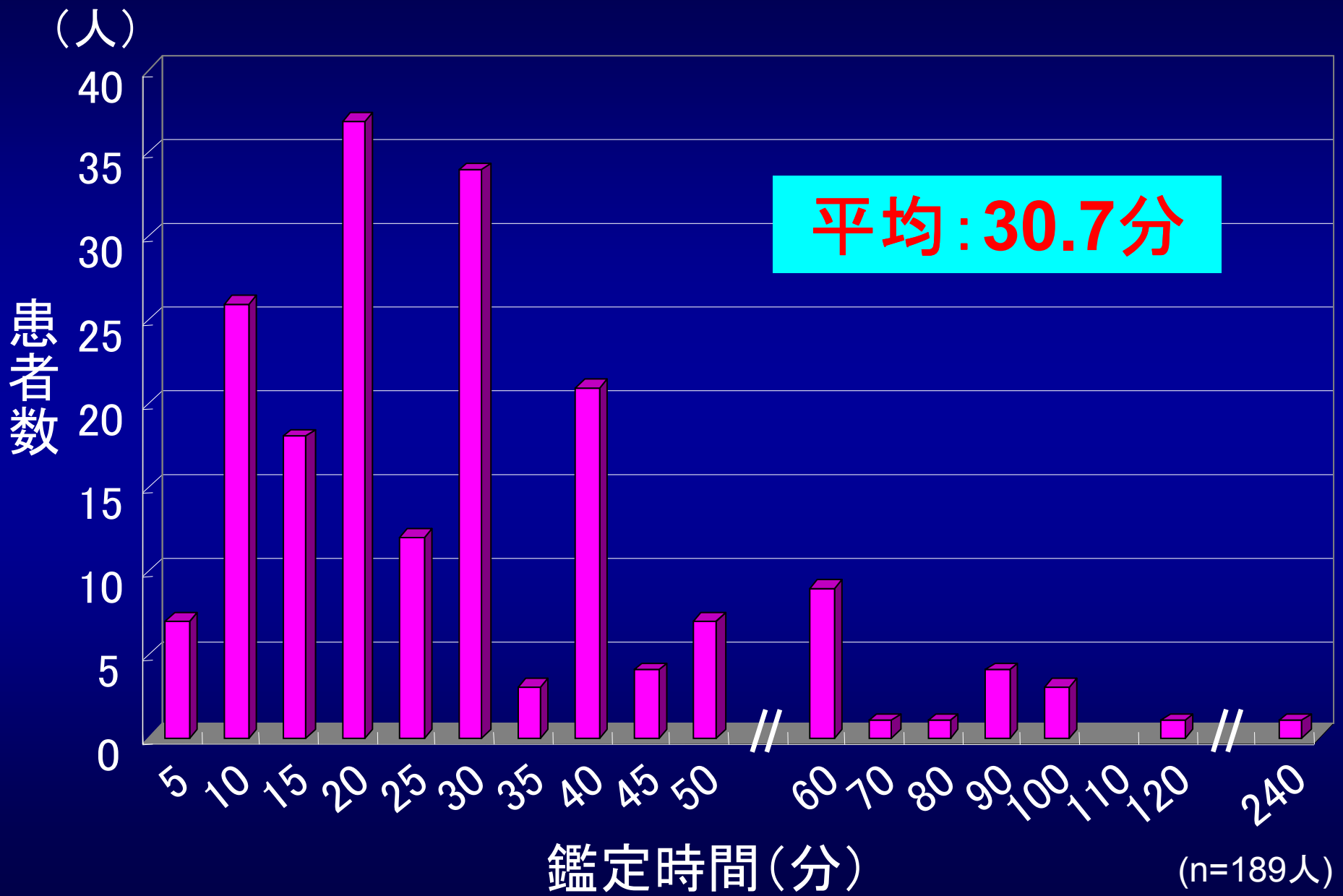


持参薬鑑定時間

指示	人数 (人)	延べ時間 (分)	平均時間 (分)
使用	158	5100	32.3
詰所管理	93	3483	37.5
自己管理	65	1617	24.9
中止	22	345	15.2
再開	9	360	40.0
合計	189	5805	30.7

1.5倍

約2倍

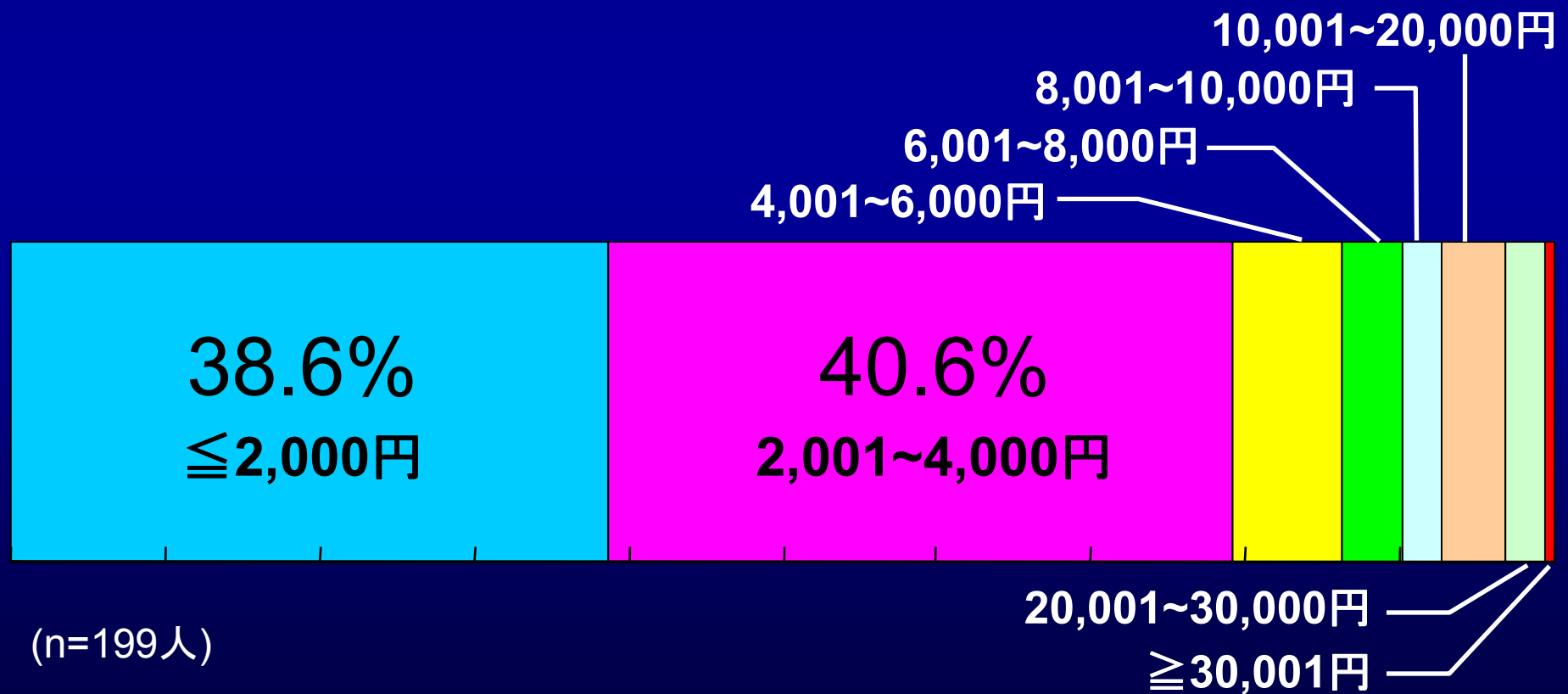


使用できた持参薬の合計薬価

5,112円／人

1,017,466円／月

(うち外用・頓用薬 ¥112,587)



内容

1. 当院での持参薬管理システム
2. 鑑定・処理に関わる手間と利益
3. まとめ

まとめ

持参薬鑑定業務は

安全面での効果はもちろん、
経済面でも大きなメリットがあることがわかった。

しかしながら、こんな問題点が…

- * 薬の重複、入力ミス、採用薬への
きりかえのチェックシステム
- * 鑑定に要する時間の見積もりが困難
- * 鑑定後の追加持参

